

【発表概要】

国際アルツハイマー・パーキンソン病学会 (AD/PD™ 2026)

SPIN コホートにおける血漿 p-Tau217 および p-Tau217/Aβ42 比を用いた髄液アミロイド病理の血液マーカーによる予測

発表者	森 (佐々木) 優子 ¹ , Roman Boeer ² , Javier Arranz ³ , Daniel Alcolea ³ ¹ Sysmex R&D Center Europe GmbH ² Sysmex Europe SE ³ Department of Neurology, Sant Pau Memory Unit, IR SANT PAU, Hospital de la Santa Creu i Sant Pau – IIB Sant Pau
発表概要	背景と目的： 脳のアミロイド陽性を予測する血液バイオマーカーは、アルツハイマー病 (AD) スクリーニングにおいてますます重要性が高まっている。特に、threonine 217 のリン酸化タウ (p-Tau217) は非常に有望なマーカーとして注目されている。本研究の目的は、Sysmex 社の自動免疫測定装置 HISCL™-5000 を用いて測定した血漿 p-Tau217 および p-Tau217/Aβ42 比の性能を、SPIN コホートにおける CSF Aβ42/40 比で定義される Aβ 病理の予測において評価することである。 方法： 2013～2022 年に Hospital de la Santa Creu i Sant Pau に登録された 199 名を解析した。内訳は、認知機能正常 50 名、AD による MCI 49 名、非 AD の MCI 49 名、AD 認知症 51 名である。CSF Aβ42/40 比は Lumipulse (Fujirebio-Europe) で測定し、血漿 p-Tau217 および Aβ42 は HISCL-5000 を用いて定量した。 結果： 血漿 p-Tau217 と p-Tau217/Aβ42 比は、Aβ 病理をそれぞれ AUROC 0.947 (95% CI: 0.911–0.982) および 0.954 (95% CI: 0.920–0.987) で予測した。最適カットオフ値は p-Tau217 が 0.176、比が 0.010 であり、感度と特異度はいずれも約 92% であった。二重しきい値 (ツェン・スレッシュホールド) アプローチでは、感度・特異度が 95%以上、精度が 94%以上となり、中間ゾーンは 21–23% にとどまり、判定の確実性が向上した。

	<p>結論：</p> <p>自動免疫測定法で測定した血漿 p-Tau217 および p-Tau217/Aβ42 比は、CSF によって定義される Aβ 病理の予測において 90% を超える高い精度を示した。これらの結果は、これらの指標が AD スクリーニングおよび臨床判断に活用できる、信頼性が高く侵襲性の低い有望なツールであることを支持する。</p>
セッション	Theme A: β -Amyloid Diseases / A04.g. Imaging, Biomarkers, Diagnostics: CSF- and blood-based biomarkers (SHIFT 02-365)